

平成30年度 第2回 川崎市小学校教育課程研究会 報告書

分科会名	会場	川崎市高津市民館
	助言者	川崎市立小学校図画工作科教育研究会会長 中臣 信丈
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 図画工作科 </div>	教育委員会	川崎市総合教育センター 岩崎 知美
	提案者	川崎市立新城小学校 田口 雅之 川崎市立川中島小学校 魚住 久美子 川崎市立末長小学校 石井 結実子
平成30年8月21日(火)	司会者	川崎市立南菅小学校 黒田 智
	記録者	川崎市立川中島小学校 松本 潤
	世話人	川崎市立川中島小学校 小路 隆之
	出席者数	146 名

1. 研究概要

研究テーマ「つくりだす喜び(満足感)を実感できる授業をめざして

～その子らしいよりよい表現につながる手だて～ ⇒自己肯定感

- ・造形的な見方・考え方を働かせる⇒社会の中で色や形に豊かに関わる資質や能力を育てること
→「感じる」「考える」の繰り返し(自己決定)の中でよりよい表現が生まれてくる⇒自己実現

2. 提案の概要

新城小学校 田口先生 題材名「LIVE SUIBOKU～生きている自然をえがく～」5学年

- ・造形的な見方や考え方が働くための手立て
①造形遊び的に墨の技法とふれあう ②自分たちや新旧の画家の作品を鑑賞する
- ・どのようにしたら生きている自然を表せるかをイメージマップで表した→「広い」「きれい」「強い」
- ・「今の発想の中には伝統がありそれを受け継いでいた」(児童の感想)→形や色と関わることで主題について考えたり伝統・革新のよさに気づいたりすることができた⇒その子らしいよりよい表現
- <質問>なぜ水墨にしたか?→にじみやかすれなどの表現に気付きやすい、筆跡に注目しやすい

川中島小学校 魚住先生 題材名「ゆるゆるゆらりん かざるんるん」1学年

- ・造形的な見方や考え方が働くための手立て
① 対話・話し合い→見て見てボードの活用「形」「ゆれ方」「色」「かざり」の視点で自分の作品をふりかえる
②「ゆれる飾り」からつくる意欲をもたせ、継続させる
- ・その子らしいよりよい表現とは、対話を十分にすることで得られた「ゆれるおもしろさを実感できた」「色や形をイメージできた」「自分の作品のよいところを見つけられた」こと
- <質問>評価をどうするか?→評価したい内容を先に伝える、どう主題と向き合っているかを評価

末長小学校 石井先生 題材名「二曲一双の世界」6学年

- ・作品の美しさやおもしろさを感じ取る力を育てたい、表現の意図や特徴を捉えられる力を育てたい
- ・造形的な見方や考え方が働くための手立て
①5つの視点(色・形・配置・ポーズ・表情)にまとめる②「部分」「比較」「全体」と見方を変える
③評論家になりきって作品カードを書けるように、5つの視点を取り入れた見本を見せる
- <質問>表現の意図は?→子ども達なりに考えた作者の意図
- <質問>与える情報は?教師がもっておく、子ども達が鑑賞しやすいように必要な情報を与える

指導要領改訂に関する伝達事項 総合教育センターカリキュラムセンター指導主事 岩崎知美先生

- ・新学習指導要領→資質・能力を身に付けられるようにするために社会に開かれた教育課程の実現を
→「各教科で育まれる資質能力」「学習の基盤となる資質能力」「現代的な諸課題に対応して求められる資質能力」
- ・見方・考え方とは、各教科等の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方
→主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ⇒深い学びになるための「鍵」
- ・図工の見方・考え方→自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと⇒つくりだすのは「子ども」
- ・B鑑賞の現行との違い…「感じ取ること」⇒「感じ取ったり考えたりし」

図画工作科研究会会長 新城小学校 中臣信丈先生

- ・教科等を学ぶ意義の明確化が必要
- ・造形的な視点を与えることが大事 ⇒主体的・対話的な学び+自己評価 ⇒深い学び
※見て見てボード(川中島小)、「色」「形」「配置」「ポーズ」「表情」の視点(末長小)
「にじみ」「かすれ」「ぼかし」の視点(新城小)
⇒「学習を自分の課題としてとらえる」「見通しをもつ」「自ら選択し、決定する」
- ・「水墨画」「風神雷神」を扱うことで我が国の伝統にふれることができる